

会 議 概 要

会議の名称	第3回 伊予市健康づくり推進協議会
開催年月日	平成27年2月19日(木)
開始・終了時刻	午後1時30分から午後2時30分
開催場所	伊予市保健センター
会長氏名	稲田 貫
副会長氏名	佐々木 典彦
出席委員(者)氏名	若松孝行、嶋田嵩、井ノ口美通、川口和男、荒木周一郎、 佐々木典彦、高岡小夜子、西田孝博、栗原和也、中嶋香織 武田淳一、田中浩
欠席委員(者)氏名	稲田貫、西畑征二郎
傍聴者氏名	傍聴者無し
説明者の職氏名	篠原課長補佐、影浦主査、太森主査、谷本主査
事務局職員職氏名	室潤子進課長、金山課長補佐、篠原課長補佐、影浦主査、太森主査 山内主査、谷本主査、松本主任
会議次第	1 開会 2 開会あいさつ 3 議事 (1) 健康づくり推進計画の推進状況について (2) データヘルス計画策定について (3) その他 4 閉会
配布資料等	資料 1-① 第2次伊予市健康づくり計画の年次計画(案) 資料 1-② H26年度推進状況 ○会次第 ○委員名簿 ○こころとからだの健康フォーラム(チラシ) ○西畑委員の提案文書

会 議 録

発言者	会議の概要
事務局	<p>定刻となりましたので、ただいまから平成 26 年度第 3 回伊予市健康づくり推進協議会を開催させていただきます。</p> <p>皆様には、御多忙のところ御出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>なお、本議会は、伊予市審議会等の委員の公募並びに会議及び会議録の公開に関する規則にのっとり、市政の公正の確保と透明性の向上のため、原則公開とし、会議内容についても議事録作成のため録音させていただきますので、発言の際にはマイク使用で発言いただきますようお願いいたします。</p> <p>なお、市のホームページに会議録を掲載させていただきますことを御了承願います。</p> <p>また、会議録作成後、録音は消去いたします。</p> <p>本日、欠席の方について御報告いたします。伊予医師会理事の稲田委員さん、住民代表の西畑委員さんから欠席の御連絡をいただいております。</p> <p>また、今年度の異動により 5 名の委員さんの変更がございましたので、改めて自己紹介をお願いしたいと思います。</p> <p>佐々木先生よりお願いいたします。</p> <p>(自己紹介)</p>
各委員	<p>○佐々木典彦副会長 佐々木と申します。私は、歯科医、歯医者です。今現在、伊予歯科医師会の顧問をやっております。どうぞよろしくをお願いいたします。</p> <p>○若松孝行委員 議会民生文教委員会委員長の若松孝行でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。</p> <p>○嶋田 嵩委員 区長会の嶋田嵩でございます。よろしく申し上げます。</p> <p>○井ノ口美通委員 中予地区食品衛生協会の井ノ口です。どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>○川口和男委員 伊予商工会議所の川口と申します。よろしく申し上げます。</p> <p>○荒木周一郎委員 中予保健所健康増進課の荒木と申します。お世話になります。よろしく申し上げます。</p> <p>○田中 浩委員 教育委員会事務局長の田中浩と申します。よろしく申し上げます。</p> <p>○武田淳一委員 市民福祉部長の武田と申します。よろしく申し上げます。</p> <p>○栗原和也委員 管理栄養士兼健康運動指導士として健康づくりなどの仕事に携わらせていただいております。今回住民代表としてこの場に参加させていただきます。栗原和也と申します。よろしく申し上げます。</p> <p>○中嶋香織委員 住民代表の中嶋と申します。よろしく申し上げます。</p> <p>○西田孝博委員 私は西田と申します。今日は健康づくりの会の会長として出</p>

事務局	<p>席させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>○高岡小夜子委員 私、伊予市食生活改善推進協議会の高岡です。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、事務局の紹介をいたします。</p> <p>健康づくり推進協議会の事務局を担当させていただきます健康増進課です。課長の室潤子と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>保健センターの篠原と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>保健センターの金山と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>保健センター保健師の影浦と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>保健センター保健師の太森と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>保健センター保健師の谷本と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>保健センター栄養士の山内と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>保健センター保健師の松本と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>自己紹介が終わりましたので、開会にあたりまして副会長の佐々木先生より御挨拶を申し上げます。</p>
副会長	<p>会長の稲田先生が御欠席ですので、挨拶を副会長として申し述べます。</p> <p>私は歯科で、会長は医科なので、医科、歯科の両方のことをある程度言わないといけないので少し長くなるかもしれませんが、御了承ください。</p> <p>インフルエンザが峠を越しまして、内科の先生はもちろんインフルエンザになった場合は非常にお忙しいのですけれども、歯科は予約制ですので、1週間前の患者さんが風邪を引きますとキャンセルが相次いで結構今月は暇だったですね。それが多分医科と歯科の違いだと思います。</p> <p>さて、よく言われることですが、平均寿命よりも健康寿命を重視する時代が参りました。これは、介護保険が導入されて、要介護になる前の予防介護の考え方が導入されて、それぞれ医科のほうでもそれについての施策がなされております。</p> <p>去年、日本老年医学会というのがありまして、これは医科のほうですけど、フレイルという定義が発表されました。これは新聞とか報道なんかで御存じだと思いますけども、加齢に伴う筋力や心身の活動能力の低下をフレイルと言うそうです。これは、もともと英語で <i>f r a i l t y</i> (フレイルティー) といって虚弱という意味なんだですけど、専門においては 20 年ぐらい前から使われていた言葉ですけども、要介護にならない前の段階で何とかしようということでフレイルという言葉が提示して、それについての施策がやられています。簡単な筋トレとかストレッチとか、栄養を十分とりましようとか、よく寝ましようとかってそういうことで、非常に日常的な問題です。</p> <p>その前に、整形外科領域でも、サルコペニアとか、これは加齢性筋肉虚弱と訳すんですけども、それから健康食品なんかでよくやってるようなロコモティブシンドロームというロコモティブという言葉ですね。これは、運動機能</p>

の低下のことを指しております、こんなとこの関節とかも含めて。去年でしたか、京都大学医学部の健康科学研究所がサルコペニア・フレイル研究会を発足させました。学会のほうでも本格的に健康寿命を延ばそうと、要介護になる前の段階で何とか食い止めようという。これは、多分日本の政府の肝入りでもあると思います。というのは、お金を使いたくないということなのですね、医療的には。

歯科の領域でも、同じことがなされております。

口腔生理学なんかで言うと、もぐもぐってかむことですね。非常に難しいような学問だと思われているかもしれませんが、これを餅つきに例えた先生がいるんです。餅つきと考えたらすごい簡単なんです。まず、モチ米は食べ物ですね、食物。臼、これは口の回り、口全体、それから口はくちびるってことです。それから、きね、これは歯です。そして、その杵をつかないけませんからつき手が要ります。それは、顎を動かす筋肉、そしゃく筋といいます。それから、お餅をつくときには、お餅をひっくり返す返し手というのが要りますよね。それがべろです。べろでこうひっくり返すわけですね。それから、唾が出ます。これが打ち水ですね。そして、お餅はでき上がる。これを食塊といいまして、口の中でもぐもぐして、ごっくんで食べれる量の食塊をつくって、それが合図となってごっくんするわけです。そしたら、そのそしゃくというのを餅つきに例えたら非常にわかりやすいです。

1つ例を言いますね。例えば歯を金で作ったり、ダイヤモンドで作ったとしても、べろがしびれいて返し手のべろがうまく機能しなかったら、これはいい餅はつけないわけですね。当然です。例えば口の回りは非常に丈夫だけでも、筋肉が衰えたらかめないわけですから、ああああと言うしかないわけです。つまり全体で口という機能があってお餅ができるわけです。それを、僕らは栄養としてごっくんするわけですから、1つその部分が欠けてもだめなわけです。ということは、全てはそういう機能を、これは全身のことでもそうだと思うんですけども、保とうと思ったらあらゆる総合力が必要なわけです。これは、ここにお集まりの医療、福祉、保健、それから教育、行政、そういう連携が必要だということとつながってくると思います。世の中でもそういう連携がないと非常にうまく機能しません。そして、このように他業種の会合で健康づくりを話し合うというのは、非常に僕は有意義なことだと思っております。

小学校で、廊下は走らないと習いましたよね。年をとると廊下はもう走らずゆっくり、80年、90年の人生を楽しむためにまず健康が第一ということです。

ちょっと長くなりましたけど、これで御挨拶とかえさせていただきます。

ありがとうございました。

議事に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。

お手元資料を御確認いただいたらと思います。会次第、続きまして委員名簿、あと資料の1ということで1枚目、2枚目、フォーラムのチラシ、あと西畑委

事務局

	<p>員さんからの文書、以上なんですけれども、足りない方はございませんか。 それでは、議事に移りたいと思います。</p> <p>この後の議事進行につきましては、健康づくり推進協議会設置要綱第6条の規定に基づき、会長が議長を務めることになっておりますが、会長が欠席されておりますので、副会長の佐々木先生にお願いしたいと思います。</p> <p>先生、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
副会長	<p>それでは、議事に移りたいと思います。</p> <p>議題(1)第2次伊予市健康づくり計画の推進状況について、これは保健センターより御報告をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、計画の推進状況について報告させていただきます。</p> <p>皆様のお手元の資料である資料1の①をご覧ください。</p> <p>これは、第2次伊予市健康づくり推進計画の年次計画表です。</p> <p>昨年度は計画を推進するために、計画を広く住民や関係機関に周知、啓発し、市民と一緒に取り組めるように努めました。この計画は、伊予市総合計画を上位計画とし、市民の健康づくり政策を推進する計画としております。</p> <p>また、伊予市食育推進1・4計画につきましても、本計画と整合性を図りながら推進しておりますが、この1・4計画につきましても、本計画の中間評価にあわせ2年延長することとし、健康づくりを総合的に推進していくことといたしました。</p> <p>本年度の推進状況については、2枚目資料1の②をごらんください。</p> <p>計画の推進に向けて、目標に沿って事業に取り組んでまいりました。</p> <p>事業内容につきましては、表のとおりです。</p> <p>平成26年度の新しい取り組みとしましては、伊予歯科医師会の協力のもと、妊婦歯科健診を個別健診でも受けることができるようになりました。</p> <p>また、成人歯科健診についても、対象の開始年齢を40歳から20歳に変更し、若い世代からも歯の健康づくりを推進しております。</p> <p>また、こころの健康づくりとしては、自殺対策緊急強化事業とあわせ、相談や教室、講座を実施しております。今回チラシ配布させていただきましたこころとからだの健康フォーラムもこの事業の一環で実施しておりますので、紹介させていただきたいと思ひます。</p> <p>チラシのほうをごらんいただいたらと思ひます。</p> <p>次の日曜日、2月22日、ウェルピア伊予におきまして、アスレチックトレーナーの岩崎由純先生をお招きして、「健康づくりは心の健康から」と題しまして講演を開催いたします。また、御参加いただける方は、よろしくお願ひいたします。</p> <p>続いて、健診に関しまして、担当の影浦より報告させていただきます。</p> <p>それでは、パワーポイントを利用させていただいて御説明をさせていただきます。</p>

市の計画の中で基本方針として、自分の健康に関心を持ち、健診を受けようということを広く周知させていただき、健診を健康づくりのスタートラインと位置づけて啓発をしているところです。

特定健康診査受診率の向上に向けての取り組みについてということでお話をさせていただいたらと思います。

こちらは、特定健康診査の対象となる伊予市の国民健康保険加入者の状況です。

郡中地区、上野地区、中村地区、大平地区、中山地区、双海地区という形で、年齢、男女別に分けております。この7,722人の方について今特定健康診査をお勧めしているところです。

健診と受診勧奨等につきましては、年間計画を立てて対応しているところですが、こちらのように、受診を促進するために、例年健診の御案内を全戸配布させていただいたり、健康診査の案内ポスターを掲示させていただいております。また、各団体ということで、いろいろな団体の集まりがある場合には、健診の周知を図るためにチラシなどの配布もさせていただいているところです。健診のお申し込みのない方につきましては、地区ごとに受診勧奨のはがきを送らせていただいて、電話での御案内をしております。

今年度特定健康診査の受診券の送付にあわせて、特定健康診査の受診に関する調査票というものを配布いたしましたので、その結果について御報告させていただいたらと思います。

こちらの表が、先ほどの7,722件の方、受診券を送らせていただく対象者の方なんですけれども、その割合になっております。男性が3,586名、女性が4,136名ということで、男性のほうが若干少ないような対象者になっております。

次に、調査票の返信の状況についてですが、今回受診券の送付にあわせて、同封したはがきで返送していただくというような形をとらせていただいております。郵便で返送していただいた方、直接保健センターの窓口を持ってこられた方、電話で対応していただいた方がおいでますが、全てを有効回答数という形にさせていただきました。あと、締め切り日以降に御連絡をいただいた方も、全て含めております。こちらのほうで何かの返信をしていただいた方々が全体の16%程度になっておりまして、男性では全体の7%、女性では全体の9%です。有効回答率の横にあるのは、男性全体の中では、対象の方については男性が525人ということで、14.5%というようなパーセントになっております。

この返送をしていただいた方の中で、730名の方から健診を受診したいというような希望がありました。そのうちに、集団健診を希望された方については668名、個別の健診で受けたいと言われた方は62名となっております。こちらが、受診希望があるとお答えいただいた方の男女別、年齢構成の率になっ

ております。男女とも、60 から 69 歳の方が 60%を占めておりまして、60 歳以上の方で健診を希望された方が全体の 80%以上となっております。

こちらのほうは、今年度集団健診を受けられた状況と、返送について確認したところ、特定健康診査も集団検診を希望すると回答した方のうち、53 名については受診がされていない状況でした。反対に、個別で受診を希望するという中で集団健診を受けられた方は 5 名となっております。

ただ、今回のこの健診の状況については、個別健診を受けられた方の状況をちょっとまだ反映できておりませんので、今の時点では個別健診を受診している方、1 月請求分ということで、10 月、11 月ぐらいに受診をされた方がおいでるんですけれども、個別健診では 97 名の方が今受けていただいている状況です。こちらのほうで見ていただくと、今年集団健診を受けられた方の中で 1,057 名については、調査票の返信のないまま受診していただいております。

こちらは、集団健診を希望しないとお答えいただいた方 489 名の理由についてです。これは複数回答にしております。最も多かったのは、定期的に病院にかかっている、次いで職場の人間ドックで受けている、健康だと思っているというような回答になっております。また、これ以外に、時間がないとか、よくない結果が出るのが嫌であるというふうな理由もありました。

私たちとしては、今後、健康だと思っている、時間がない、よくない結果が出るのが嫌というふうに回答された方について、さらに健診の必要性を説明し、健診を受けていただくということをお勧めしていきたいと考えております。

私のほうからは以上です。

続きまして、妊婦一般健康診査結果の分析に関しまして、太森より御報告いたします。

私のほうからは、妊婦一般健康診査の結果の分析をして、そこから見えてきた課題とそれから今後の対策について御報告をいたします。

平成 25 年度の妊婦一般健康診査を受けた妊婦のうち、要治療、要精密検査の所見があった方の所見内容をこの表にまとめてみました。

160 人の方が要治療、要精密検査の判定を受けまして、要治療の 145 人の所見の内訳は、上から読み上げますと、貧血が 114 人、高血圧、妊娠中毒症が 5 人、耐糖能異常が 2 人、G B S が陽性、クラミジアの感染症の方が 9 名、そしてその他が 15 名で、要精密検査の判定を受けた方は 15 人で、その内訳としまして、子宮がんの疑いのある方が 8 人、糖尿病の疑いのある方が 4 人、風疹抗体陽性の方が 2 人、H T L V - 1 疑いの方が 1 人でした。

次に、平成 25 年度から平成 26 年度の出生児のうち、低出生体重児などの有所見児の母親の妊娠中の状況を調べますと、有所見児 42 人中、低出生体重児が 16 人いました。その 16 人の母親の妊娠中の所見を見ますと、貧血が 8 人、糖尿病の疑いが 2 人、切迫早産が 6 人、前置胎盤が 1 人、高血圧が 1 人

	<p>でした。</p> <p>次に、黄疸の新生児が 20 人なんですけれども、その母親の妊娠中の所見を見ますと、妊娠中毒症が 1 人、貧血が 13 人、尿糖・高血糖が 3 人他となっております。そのほかの新生児の所見としまして、呼吸不全、臍帯輸血ショック他となっております。</p> <p>ここで注目すべき点は、貧血とか糖尿病の疑い、高血圧などの生活習慣病の所見のある妊婦さんが多いという点です。こちらのほうの妊婦健診のデータを分析してわかったこととしまして、要治療、要精密検査者の約 8 割弱が貧血とか高血圧、高血糖と生活習慣病といわれる所見があり、出生時に低出生体重などの異常があったうちの母親の妊娠の状況を調べると、その約 7 割が生活習慣病といわれる所見がありました。このことから、妊娠中に貧血、高血圧、高血糖などの所見のある妊婦を支援していけば、出生時の異常の一部を防げるのではないかとというふうに考えられます。</p> <p>以上のことから、妊娠期において生活習慣病予防のための保健指導をしたり、妊婦健診の結果に基づき保健師がそれぞれに電話や訪問などでフォローをし、随時マザー教室への勧奨とか個別栄養相談への紹介などを行って支援をしていきたいと考えております。</p> <p>妊婦の健康を守ることが妊婦自身の健康と生まれてくる子供の健康につながり、ひいては家族の健康にもつながっていくということですので、妊娠期からの支援にさらに力を入れていきたいと思っております。</p> <p>私のほうからは以上です。</p> <p>以上、推進状況について報告させていただきましたが、ただいまの報告からも、大人だけでなく、妊婦のおなかにいる胎児のころからの生活習慣病の予防が大事であり、市民が若い世代から健康づくりについて認識し、行動できるよう、母子保健、成人保健と関連づけながら、市民の健康づくりをサポートしていきたいと思っております。</p> <p>以上、保健センターからの報告を終わります。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま報告していただいた内容について、御意見または御質問がありましたらどうぞお願いします。</p>
副会長	<p>荒木さん。</p> <p>○荒木周一郎委員 中予保健所の荒木でございます。</p> <p>ただいまの議題につきまして、まず特定健診で未受診者もいらっしゃるということで啓発に取り組むというお話でしたが、これは質問といいますより、啓発の一つの手段の参考にしていただければと思うんですけれども、私ども中予保健所でやっております事業で、佐々木先生も御存じかと思いますが、中予地方局で歯科検診受診促進モデル事業を松山法人会というふうな企業と我々地方局の独自の予算でやっております、あと歯科医師会、この三者が連携して</p>

	<p>取り組んでおるところです。</p> <p>来年度3年目を迎えます3年計画で進めております。そういう歯科という側面から見た取り組みをやっておるところなのですが、働く世代における歯周病等の問題がやっぱりかなり大きい、まだ手がつけられていない、そういう部分が多いということで取り組んでおるわけですが、そうした一つの啓発の方法として法人会に加入しております企業さんとか事業所というところに健診情報を流すというようなことも来年度考えておまして、これはもう歯科の健診に限らず、がん検診あるいはその他の健康情報ということで考えておるんですけども、そのあたり管内市町、それから松山市も入っていますので、そういった方々と協議をしていきたいと思っております。それが一つでございます。</p> <p>それから、1つお伺いしたいのが、生活保護受給者の健診受診については何か把握しておられますでしょうか。生活保護受給者がいて、その方の健康診断といえますか。やはり生活保護受給者の中には健康問題を抱えていらっしゃる方が多くいらっしゃるということもありまして、市町に出向いたときにちょっと聞いてみたいと思っていたのですが、何か情報がありましたら教えていただきたいのですが。</p>
事務局	<p>生活保護受給者の方につきましては、全体数のうち何人が受けているという数字は今手元に持ってないのでわかりませんが、生活保護受給者の方でも被保険で受けられる方についてはそちらで受けていただくので、保険を持ってない方として市の集団健診に来られる方も何名かはおいでます。ちょっと今時点で生活保護の担当のところとどのぐらいの方が健診を全く受けてない状況にあるかっていうのはこちらのほうで把握し切れていない状況になります。</p>
委員	<p>わかりました。</p>
	<p>もう一点いいですか。</p>
副会長	<p>はい、どうぞ。</p>
委員	<p>次の妊婦健診について。低出生体重児が16名いらっしゃったということで、結構いろいろ何が一番問題というか、原因として、改善したら低出生体重児が減少するような効果があるのかという部分では、やっぱりおっしゃってましたように、貧血というのが幾つかそういった調査研究によるものでも報告されております。特に妊娠初期の段階の貧血が関連しているというふうにも報告の中では述べられておりました。となりますと、妊娠する前の段階からやっぱり貧血、主に鉄欠乏性貧血ですから食生活の見直し等が必要ではないのかなという気がします。妊娠の届け出が出てからじゃなくて、そういう世代全体に何かそういう母性の涵養を醸成するような取り組みっていうものが必要なのかなという気がしました。</p>
	<p>以上です。</p>
副会長	<p>ありがとうございました。</p>

委員	<p>その他ございませんでしょうか。</p> <p>どうぞ。</p> <p>さきの調査結果で、貧血の方が一般の妊婦も増えているようですが、保健センターとして地域もしくは全体的にどういう御指導をなさっておられるか、ちょっとお聞きしたいと思います。</p>
事務局	<p>貧血に対してだけというわけではないのですが、伊予市ではマザー教室というのを年間3コースで行っておりまして、妊婦さんへの食生活の指導も栄養士さんにいただいているのですが、健診結果で異常があった方などは、極力マザー教室に来ていただいて指導を受けていただくようにしております。ただ、ちょっと最近仕事をしている妊婦さんも結構いらっしゃって、そういう場に来られない方もいらっしゃるので、そのあたりはまた対策を考えていきたいと考えております。</p>
副会長	<p>その他ございませんでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>それでは続きまして、議題(2)に移りたいと思います。</p>
事務局	<p>データヘルス計画策定について、これも保健センターより御報告をお願いします。</p> <p>そしたら、私のほうから、現在データヘルス計画を策定しているというところで、その取り組み、そして計画について、簡単ではありますが御説明させていただきます。</p> <p>データヘルスというのは、レセプト情報と健診情報を活用した保健事業を進めていこうっていうものになります。</p> <p>データヘルス計画を策定することになった背景についてですが、20年度前後からレセプトの電子化が進んでいるということと、あとそして特定健診、特定保健指導の実施が20年度から保険者に義務化されて、またその結果について電子的に保険者が持っているという状況にあります。</p> <p>これらのことから、保険者が健康や医療情報を活用して健康課題の分析や保健事業の強化などを行うための基盤整備がされてきたというので、レセプトとか健診情報を使ってより効果的、効率的な保健事業が推進できないかと始まったのがデータヘルスになります。保険者である伊予市で言うと、国保においても国保データベースシステムが導入されておりまして、現在健診と医療と介護の3つのデータを一貫して見られるように整備されてきております。そして今、ちょうどそのデータを活用しまして、国とか県とか、あと同規模市町との比較をしながら、伊予市の立ち位置状況というのを確認しながら、作業を通じてデータヘルス計画を策定しているところです。</p> <p>あわせて、国の動きについてもお話しておきます。</p> <p>国は、超少子・高齢社会に突入することなどから、平成25年6月の日本再興戦略において、国民の健康寿命の延伸を重要な柱として掲げました。そして、</p>

	<p>国はその実現のために、ここで保険者によるデータヘルス計画の取り組みを求め推進するとして閣議決定をしています。それを受けまして、保健事業の実施指針は保険者が中心となって健康管理にデータを活用してP D C Aサイクルで効果的に推進していくということを明確に打ち出してきています。国は、効果的なことから優先順位を決めてとにかく取り組んでいきなさいと、焦点を当てた保健活動の推進をするよう言っています。</p> <p>そして、データヘルス計画では費用対効果の観点も考慮するよう求められています。国は、データヘルス計画によって効果的、効率的な保健事業を行うことで人々の健康レベルを改善することができれば、その結果として医療費も減少すると思っています。言い換えれば、データヘルスに基づく保健事業というのは、人々の健康レベルの改善と医療費の節減という2つの課題解決を同時になし得るものということで、国はこれを重要施策として位置づけています。また、消費税を上げて社会保障費を増やす中でどの国民に成果を示しているかということも国は考えていまして、健康医療政策においてどの都道府県が成果を上げているか、どの医療保険者が成果を上げているかがわかる仕組みづくりも始めています。</p> <p>そうした中で、伊予市におきましては、現在国保部門と衛生部門とが連携をとりながらデータヘルス計画を策定しているところです。伊予市の年間医療費の伸びをどこまで抑制できるのかといったことは、保健事業の推進に伴う効果というものが求められているということで、来年度中には策定をして、レセプトや健診情報を活用した形で事業に取り組めるところから一歩ずつ進めていきたいと考えております。</p> <p>この計画につきましては、さきに策定しております特定健診等実施計画第2期を内包した第2次伊予市健康づくり計画と一体的に策定をしまして、その期間についてもそれらの計画との整合性を踏まえて、平成29年度までの3年間で予定しています。また、策定した計画につきましては、市の広報紙やホームページなどに掲載していき、周知をしていきたいと思っております。</p> <p>以上、今回は簡単な御説明になりましたけれども、現在データヘルス計画を策定しておりまして、またその策定作業を通じて共通認識のもと、今後も関係部署と連携しながら保健事業に取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>以上で私からの説明を終わります。</p> <p>議題(2)のデータヘルス計画策定についての御報告をいただいていますけれども、これについて御意見、御質問ございませんでしょうか。</p> <p>はい、どうぞ。</p> <p>住民代表の栗原です。よろしくお願ひします。</p> <p>データヘルスに関してなんですけれども、先ほどパワーポイントのほうでレセプトだとか、あと健診情報について活用していったって、そのデータを何かデータヘルスにつなげていっているものがないかというところで御検討いただいて</p>
副会長	
委員	

	<p>いるということでしたが、そのほかに、例えば今は特定保健指導が40歳以上の方が対象になって特定健診、特定保健指導は行われているのですけれども、やっぱり先ほど妊産婦の方たちに向けた生活習慣病の予防とかっていうところを考えていくと、若い世代への健康づくりっていうところの推進をしていくことも必要なんじゃないかというふうに考えます。特定健診だと集められるデータというのがやはり40歳以上というところに限られてきますので、例えば若い世代とかでも自分の健康状態が見えるようなデータがとれるような機械を利用するとか、私はスポーツ栄養のほうをちょっとさせていただいて、例えばスポーツをされている方は貧血の方が多いです。その貧血を調べるために、機械の測定で血液をとらなくても指を当てただけでヘモグロビン値が測定できるってというような機械とかも出てきています。一応ヘモグロビンだけで貧血を見るっていうことは、それで全部がピックアップできるっていうわけじゃないんですけども、そういったきっかけづくり、自分はもしかしたら貧血の疑いがあるんだとか、あと指の血管を見て例えば血管の状態や体の状態、糖尿病だとか脂質異常とかに影響していますよってというような、そういう測定機械もありますので、そういったツールを利用しながらデータをとっていったら、そのデータとレセプトだとか健診情報とっていったらと組み合わせると、また若い世代のところでも何か見えていくのではないかというふうには考えました。</p>
副会長 委員	<p>以上です。</p> <p>荒木先生、お願いします。</p> <p>すみません。ちょっと一言補足をさせていただきますと、データを分析する際とか、先ほども母子の件で貧血とかということ、我々は根拠のあることをやって、貴重な税金を使って対策をとっているわけですので、そういう面でも根拠に基づいた対策というのが求められているわけですので。そういう方法、データ分析、あるいはエビデンスといいますか、学問的に分析した結果これが本当の原因だというふうな分析、そういった点について、愛媛大学の公衆衛生学教室に昨年7月に来られた先生がそういう部分が専門でいらっしゃるということで、そういうオーソリティーっていうのですか、そういったところに相談するのがいいのかなというふうなちょっと気がしました。特にそういう母子保健関係の疫学研究なんかをされているようですね。一応参考までに、すみません。</p>
事務局	<p>いろいろな貴重な御意見ありがとうございます。</p> <p>今のデータを分析しながらこれからの進むべき道をどうしていったらいいかというのを考えているところに、いろいろな貴重な御意見をいただきましたので、今あるデータをどうやって活用していくかというあたりで、また先生のお力もいただきながら相談させていただいたらと思いますので、よろしくお願ひします。</p>

副会長	<p>それでは、議題(2)のデータヘルス、何か御質問はないでしょうか。 どうぞ。</p>
委員	<p>これは保健以外の部分についてちょっと心配している部分があるのですが、伊予市の場合も松山市との関係で痛ましい事故がありました。これ自身は健康と直接関係がないと言えないように考えられることもありますけれども、生活習慣それから生活のレベルによってやっぱり精神的に追い詰められて事件に関係するということもある可能性がありますし、精神的な健康も先日の場合は関係がございまして、やはり生活支援のレベルの高さを含めて、またデータに出てない部分で伊予市として健康を高め生活のレベルを高めるためにはやらなければならないこと、調査しなければならないことが隠れている部分があるのではないかと、臆測ですけども、それを思うわけであります。</p> <p>健康生活を市民全体として向上させるために、このような今あらわれているデータを見せてございましてけれども、データにあらわれない伊予市の実態というものは場合によってはかなりあのではないかなど。生活の格差というのが、先ほど言われていますが、実際に高齢者の方も、また若い方も健康生活についてはやはり経済的に追い込まれている方々も、地域を担っている区長としてはやはりいろんな事柄を考えなければならない面がたくさんあります。</p> <p>その点、今後センターのほうで地域と密接に連絡をとり合って、部分的に1件か2件である場合もありますけれども、市全体について、ああ、これは問題ではなかろうかという事柄がありましたら、そこをもとにして伊予市の健康レベルの向上のための一つの切り口をつくっていただいて、安心した伊予市の皆様の生活ができるということのためにいろいろ頑張ってもらいたいと思っております。</p> <p>以上です。 ありがとうございました。</p>
副会長	<p>それでは、議題(2)ほかはないようでしょうかね。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>それでは、議題(3)に移りましょう。 (3)その他です。 どうぞ、事務局お願いします。</p>
事務局	<p>皆様のお手元に、本日御欠席の西畑委員さんからの文書を印刷させて頂いて配付させていただいております。</p> <p>今回、御欠席の報告とともにこちらの文書をいただきましたので、この場で紹介させていただきます。</p> <p>内容といたしましては、1つ目が、御自身の健康づくりということで、週3回スポーツジムで健康づくりに励まれていることを書かれております。</p> <p>2つ目が、ラジオ体操の実施ということで、隣町でラジオ体操を実施して、体を動かすだけでなく、心も気持ちよくなるというもので、是非安くて手軽</p>

<p>副会長</p> <p>事務局 副会長</p> <p>事務局</p>	<p>にできるものなので伊予市にも広めていきたいという御提案です。</p> <p>3つ目が、四国八十八カ寺めぐりによる健康増進ということで、2枚目に記録用紙もつけておりますが、毎日歩いた距離を記録していき、八十八カ寺の距離を制覇するというもので、そういう取り組みで増進の一つにこちらを用いてはどうだろうかということです。また、やる気にさせるためにスポンサーなどを見つけて、景品などもお渡しして、広く市民の皆様を広めていったらどうだろうかということです。この3つの御提案をいただいておりますので、今回紹介させていただきます。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>これは報告ということですね。</p> <p>はい。</p> <p>(3)のその他で何か、お知らせしようということがありましたらお願いします。ないでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>そしたら、一応これで(1)、(2)、(3)が終わりました。</p> <p>他にお話がないようですので、そろそろ議長をおろさせていただきます。どうもありがとうございました。</p> <p>佐々木先生、ありがとうございました。</p> <p>議長さんのスムーズな進行により、滞りなく議事を終了することができました。ありがとうございました。</p> <p>今回の協議会でいただいた御意見を参考にしながら、各分野と連携を持ち、健康づくり計画を推進してまいりたいと思います。</p> <p>今後も、市政全般はもちろんのこと、健康づくり関係におきましても御助言、御指導をいただきますようよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、以上をもちまして第3回伊予市健康づくり推進協議会を終了いたします。長時間にわたりましての御審議、ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。</p> <p style="text-align: center;">午後2時30分 閉会</p>
--	--